

震災の混乱から一段落ついて、 自分にできることはないか考えていた



須藤明美さん【写真左】らは「えがおねっと」を立ち上げ、避難所の女性被災者一人一人の希望に沿った支援物資を手渡す活動を行いました



全国の支援団体から送られた多くの支援物資から「その人だけ」に必要な支援物資を一つ一つ仕分けするメンバー

特集

必要としている あなたのために

女性被災者の支援に取り組んだ
「えがおねっと」11カ月の軌跡

昨年3月11日に発生した東日本大震災では、登米市も大きな被害を受けました。そんな中、自らも被災者ながら近隣沿岸部の被災者の支援に取り組んだ女性たちがいます。震災による女性被災者の支援のために立ち上げた「えがおねっと」。

今月号では「えがおねっと」代表の須藤明美さん（登米町）の話を中心に、11カ月に及んだ活動の軌跡を振り返ります。（2～9ページ）



須藤 明美（すとう・あけみ） 登米町新町在住

えがおねっと代表、水稲・畜産農家。登米市男女共同参画審議会委員、元登米市男女共同参画条例策定委員、元第2次登米市男女共同参画基本計画策定委員会委員長、登米市の医療を考える会会長

「えがおねっと」の結成
きっかけはお見舞い訪問

私は、市内登米町で牛の繁殖、水稲の専業農家を営んでいます。家族は、夫と小学5年生の息子、義父母の5人です。

「えがおねっと」は、震災直後から登米市の避難所に暮らす女性を支援することを目的に結成したものです。設立のきっかけは、昨年3月11日の東日本大震災。私の家でも大きな被害があり、買い物やガソリンを求めて並ぶなど苦労をしました。その苦労が一段落ついた頃、自宅近くの登米公民館に南三陸町の人たちが避難してきているというのを聞きました。

その時、私にも何かできることがあるか、炊き出しのお手伝いはいかがか、義援金を集めて送ったほうがいいのかなど、いろいろ考えました。ただ、そう考えているだけで、実際にはなかなか行動には移せませんでした。

そうした中、市の男女共同参画担当である市民活動支援課の三浦徳美さん（当時）から、仙台のNPO法人「イコールネット仙台」代表理事の宗片恵美子さんと、宮城学院女子大学の浅野富美枝教授が、避難所の女性にお見舞い訪問に行くということで「もしよかつたら一緒に行きませんか」と声をかけていただきました。

それで早速、4月28日に市内の各避難所のお見舞い訪問に同行し、女性だ